

魚を科学する

水産研究発表会の御案内

静岡県水産技術研究所では、駿河湾など豊かな自然のもとに営まれている本県の漁業、養殖業、水産加工業等を振興するため、県内各地域の水産技術研究所及び分場において、様々な試験研究を行っています。

この研究成果の一部について、一般の方々にもわかりやすく紹介しますので、多くの皆様の参加をお待ちしています。

と き 平成 24 年 11 月 30 日（金）13 時～16 時（開場 12 時 30 分）

と ころ 静岡県水産技術研究所 3 階大会議室（焼津市小川 3690）

発 表 内 容

- ① “ガラモ場”今昔物語～ガラモ場回復の試み～
- ② 魚たちのゆりかご“藻場”をよみがえさせるために
- ③ にじます種苗生産技術の向上を目指して
- ④ これからも「ニホンウナギ」が食べられるように
- ⑤ 人工衛星データからマグロ漁場を探す
- ⑥ 珍しい深海魚を食卓に！

参 加 費 無料

申込み／問い合わせ

①住所、②氏名、③電話番号、④職業を FAX、ハガキ又はインターネットメールで 下記まで御連絡ください。

（先着 100 名まで）

静岡県水産技術研究所 焼津市小川 3690 〒425-0033

TEL : 054-627-1818

FAX : 054-627-3084

メール : suishi@shizuokanet.ne.jp

主催 静岡県水産技術研究所

発表内容の概要

① “ガラモ場” 今昔物語～ガラモ場回復の試み～

(伊豆分場 山田博一)

ホンダワラ類が作る“ガラモ場”は魚介類の産卵場や生息場となりますが、近年衰退現象が散見され、その原因の一つとして、ウニによる食害が考えられています。今回、ウニの除去と海藻の種（たね）の供給を行うことで、“ガラモ場”の回復を試みましたので、その結果を紹介します。

② 魚たちのゆりかご“藻場”をよみがえらせるために

(深層水科 小澤 豊)

磯焼けにより消滅したカジメやサガラメの藻場を再生するため、人工種苗の効率的な生産法や的確な移植法に関する研究を重ねた結果、榛南海域ではカジメの藻場が広がりつつあります。現在は、サガラメの藻場再生に係る研究を進めており、その経過について紹介します。

③ にじます種苗生産技術の向上を目指して

(富士養鱒場 川合範明)

静岡県のにじます生産量は日本一を誇っており、その養殖種苗のほとんどが富士養鱒漁業協同組合により生産されています。この種苗生産技術の一層の向上を図るため、富士養鱒場が改善した親魚の給餌方法や新しい品種の導入について紹介します。

④ これからも「ニホンウナギ」が食べられるように

(浜名湖分場 田中寿臣)

近年のシラスウナギの不漁は、関係業者や消費者に大きな影響を与えています。本県は、国との連携により、シラスウナギを人工的に大量生産する研究を行っていますので、これまでの研究成果と今後の展望について紹介します。

⑤ 人工衛星データからマグロ漁場を探す

(資源海洋科 増田 傑)

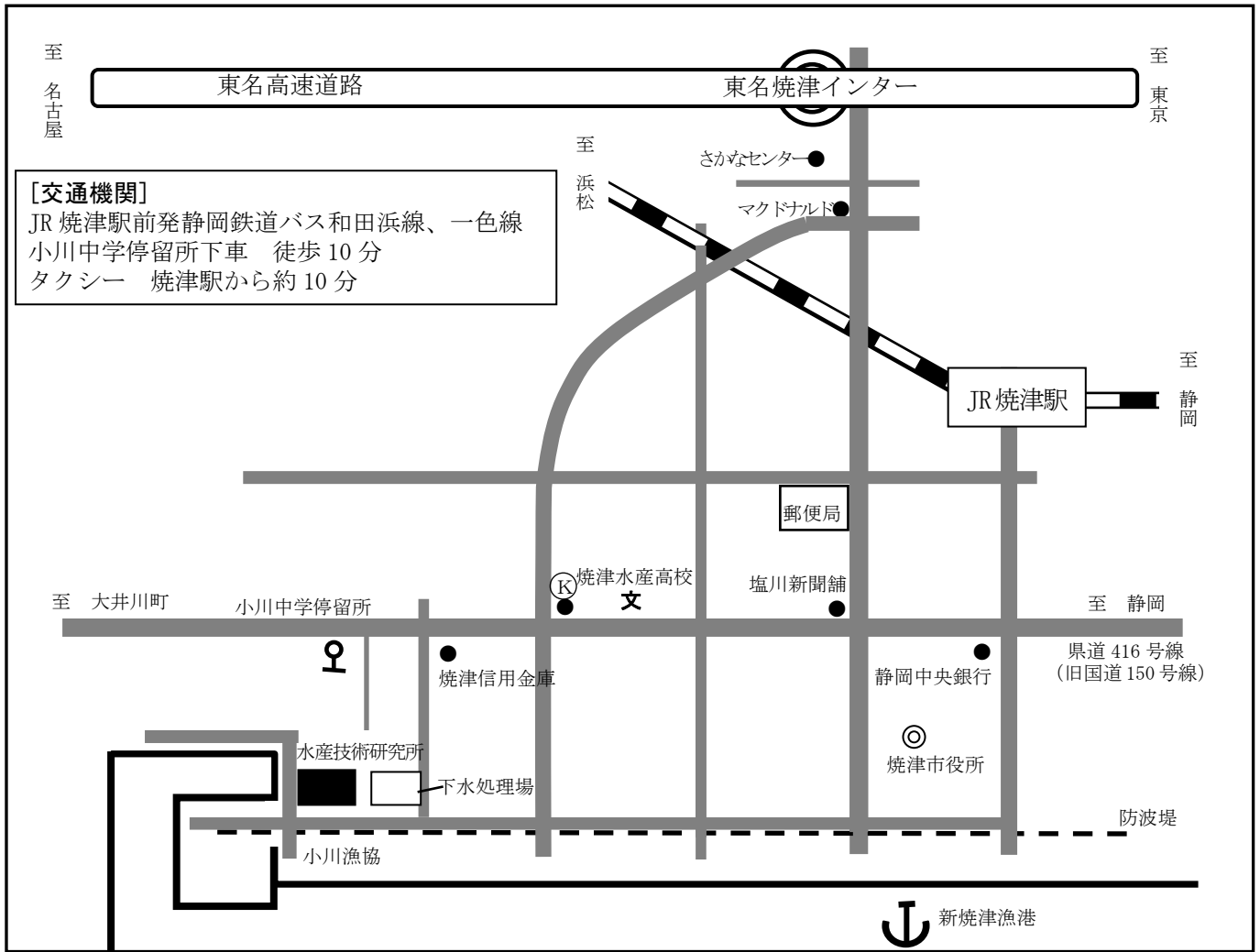
おなじみの油漬け缶詰として、最近では寿司ネタとしても需要の高いビンナガマグロは太平洋で漁獲されます。広大な海での漁場探索は、漁師の経験と勘に頼るところが大きく不安定要素ばかりです。このため、人工衛星等のデータから漁場を予測する技術を開発したので紹介します。

⑥ 珍しい深海魚を食卓に！

(開発加工科 山崎資之)

小型底引き網漁業では、様々な深海魚が漁獲されますが、その中には食卓に上らない魚が少なくありません。こうした魚の食材としての可能性を探るため、種類や魚肉成分さらには鮮度を調べ、それぞれの魚に適した加工特性を明らかにする研究について紹介します。

案内図



水産研究発表会 参加申込書

静岡県水産技術研究所長 宛

住所：〒425-0033 焼津市小川 3690

FAX：054-627-3084 (TEL:054-627-1815)

氏名	
住所	
電話	
所属等	

*住所はどの地域の方が、所属等はどんな分野の方が参加されたかを知るための参考にさせていただきます。